

# 第二期作戰

五月二十一日 晴

## 一 第二期作戰開始

第一期作戰ニ依リ師團作戰地域内ノ敵軍ハ殆ド潰滅セシモ山地内ニ蟄伏シ或ハ村落ニ四散セル敗殘兵ハ其數少カラズ依ンテ第二期作戰ニ於テハ之ガ敗殘兵ヲ撤底的ニ索出剔抉スルト共ニ黄河及山西省ノ要地ヲ確保シ全管内ノ肅正建設促進ニ任ズ

## 二 有線

ノ作業隊出發

岡田少尉以下四十三名ハ孟縣ト洛戎鎮間半永久通信線架設ノ爲八時濟源出發自動

三

貨直ニ依リ現陽中清北ヲ經テ盩縣ニ至リ  
 同地ニ殘留中ノ鈴木上等兵以下ニ名及器  
 杖ヲ積載シ十六時三十分孟縣ニ到着作業  
 ヲ準備ス  
 二 濟源殘留ノ作業軍營以下三十二名ハ師團  
 交換前ノ森川部隊間ノ有線網ヲ撤收ス  
 三 無線  
 一 經支隊本部ハ陽城方面ニ脱逸セントス  
 ル敵隊十四集團軍ヲ捕捉スバク敵ヲ撃破  
 シツ、陽庄ニ到リ露營ス  
 攸野分隊ハ支隊本部ト行動ヲ共ニシ峻嶮  
 ナル山嶽ヲ突破シツ、克ク通信連絡ニ任  
 ジツ、アリシガニ十一日四時支隊本部ガ  
 兵力約六百ノ敵ノ襲撃ヲ受クルヤ此ノ間

分隊長以下沈着通信連絡ヲ確保シ支隊危  
 險ヲ脱スルノ素因ヲ作り飛行機ノ來援ヲ  
 得テ該敵ノ撃退セリ  
 同分隊ハ本日新ニ栗栖部隊配屬トナリ十  
 六時孤山村出發龍崖底ニ到リ栗栖部隊長  
 ノ指揮下ニ入ル

之  
 第四分隊  
 第四分隊ハ七時懷慶ニ於テ田中部隊配屬  
 ヲ解ケレ八時自動貨車ニ依リ同地出發十  
 一時三十分濟源ニ歸隊後整備後十四時  
 三十分濟源出發廟街ノ小林部隊ニ到リ同  
 隊配屬トナル

3.  
 第九分隊  
 第九分隊ハ小林部隊薦田部隊配屬ノ為本

0891

52

七時濟源發東留村ニ於テ薦田部隊長ノ指  
揮下ニ入ル

通信網圖

現在無線通信網要圖附表十其ノ如シ

五月二十二日 晴

一

敵狀及我ガ企圖

陽城南方地區ノ敵部隊ハ殆ド四散潰滅セル

モノ、如キモ山中ニ逃避潜伏セル兵數ハ尚

多數ニシテ逐次師團作戰地域内ニ潛入セン

トスルノ微アリ

師團ハ嚴ニコノ敵ノ侵入ヲ阻止掃滅ス

部隊ハ現任務ヲ續行スルト共ニ新ニ高井部

隊間ノ無線連絡ニ任セントス

部隊作命下達

二

四

高井部隊トノ無線連絡ニ關スル精作命第一  
六二號別紙(詳(其))ノ如ク下達ス

有線

有線作業隊ハ孟縣一治戍鎮間作業八時開始

孟縣警備隊ヨリ中島小隊長以下二十名ノ掩

護ノ下ニ約十一料ノ作業ヲ完了シ孟縣ニ宿

營ス

五

無線

第三第四分隊ハ經登部隊配屬ノ為駄馬編成

ヲ以テ二十時齊源出發二十一時廟街經登部

隊長ノ指揮下ニ入ル

五月二十三日 晴

一

有線

作業隊

二

1. 無線

一部、交信中止  
無線小隊ハ第六分隊ヲシテ交信中ノ戦闘  
司令所ノ封鎖新部間ノ連絡ヲ本十八時三  
十五分以降中止ス

3.

鯉登部隊大須賀部隊交換機ニ加入ス  
時撤収完了ス  
山ノ胡嶺間ノ通信線撤収作業ニ任ジ十三

之

武山ノ胡嶺間撤収  
作業行程約一〇・二料

有線作業隊ハ前日ニ引續キ八時作業開始  
十四時三十分至縣ノ治成鎮間半永久線作  
業完成ス

敵情及我が企圖  
 敵第十四集團軍司令部及約三千人部隊ハ昨  
 二十三日未明武山ノ胡嶺間ノ地区ヲ通過シ  
 渡河ノ目的ヲ以テ南進セシモノ、如シ  
 師團ハ極力浸入セシ敵ノ捕捉ニ努ムルト共  
 二主力ヲ濟源附近ニ集結シ逐次南方ニ脱逸  
 スル敵ヲ撃滅ス

第六分隊ハ自動貨車ニ依リ十九時部隊出  
 發白濁ニ在ル湯口部隊ニ至リソノ指揮下  
 二入ル

五月二十四日 晴

二十一時以降ニ於ケル無線通信網要圖附  
 表第十中ノ如シ  
 又配屬

五

無線

達宿營ス  
時孟縣ヲ出發温縣ヲ經テ十八時清化鎮ニ到  
有線作業隊ハ昨二十三日作業完成シ本日ハ

四

有線 (注) 如ク下達ス  
ヲ別紙 (注) 如ク下達ス

三

部隊作命下達

無線通信系變更ニ關スル精作命第一六三號  
領ス  
二十時三十分三五師作命丙第二四七號ヲ受

二

師團作命受領

ニ於ケル連絡ヲ確保セズトス  
ニ無線ノ重點ヲ經登追撃隊ニ指向シ追撃間  
部隊ハ諸部隊ノ集結間ノ連絡ニ任ズルト共



一

第一分隊ハ五月三日温縣出發以來小林部隊  
 配屬トナリ次テ經登部隊栗栖部隊ニ配屬  
 甘レコノ間嶮組十ル山谷ヲ行動シツ、克ク  
 ソノ責務ヲ全フシ本二十四日栗栖部隊配屬  
 ヲ解カレ十三時濟源部隊本部ニ歸隊ス  
 五月二十五日 晴

有線 作業隊歸還

有線作業隊ハ十三時清化鎮出發懷慶ヲ經

テ十七時三十分濟源ニ歸隊ス

二 有線網構成

佐藤軍曹以下十五名ハ精作命第一六三號

ニ依リ八時三十分濟源出發武山―北蕪村

―北石村間ノ有線網ヲ構成十三時完成ス

二、無線

1. 通信系變更

無線小隊八十一時十五分以降精作命第一  
六三班ニ依リ附表第十班ノ如ク通信系ヲ  
變更シ之ガ連絡ヲ確保ス空界一般ニ靜穩  
ニシテ圓滑ナル通信ヲ實施セリ

2. 各分隊ノ行動

第四分隊ハ十五時小林部隊配屬ヲ解カレ  
二十時部隊ニ歸還爾後ノ行動ヲ準備ス  
第三分隊ハ經登部隊ト共ニ行動シ十九時  
三十分大谷鎮ニ到達ス  
第五分隊ハ二十時大須賀大隊ノ配屬ヲ解  
カレ新ニ湯口部隊長ノ指揮下ニ入り同隊  
ト經登支隊間ノ連絡ニ任ズ

三

馬匹  
既馬 錦風 踊濟 源師 團病 馬殿 二入 殿又

五月二十六日 晴

一

有線

有線 小隊ハ北石村警備隊出動ノ為伊藤及長  
以下十名ヲ以テ北蕪村 | 北石村間ノ有線網

ヲ十六時撤收ス

二

無線

ノ第五分隊長ハ湯口部隊ト共ニ大峪鎮到着後

湯口部隊長ノ指揮ヲ脱シ 栗栖部隊長ノ指

揮下ニ入り 同隊ト經 登支隊間ノ連絡ニ任

ズ

ノ第六分隊ハ二十三日湯口部隊ト共ニ白濁

ヲ出發 茨城頭鎮 | 楊大庄ヲ經テ二十六日刻

三  
 有線 有線 有線  
 有線小隊ハ北蕙村ヲ警備シテ下リタル吉岡部  
 隊出動ノ爲主力ヲ以テ十八時ヨリ戦闘司令  
 所―北蕙村間ノ有線網ヲ撤收スルト共ニ一  
 一  
 師團作命受領  
 十六時三五師作命丙第二四八號ヲ受領ス  
 二  
 部隊作命下達  
 新通信連絡ニ關スル精作命第一六四號別紙  
 如ク下達ス  
 三  
 第九分隊ハ岩瀬部隊ト共ニ十一時十分桐  
 樹嶺ニ到着峻嶮ナル山岳道ヲ突破シ小林  
 部隊ト連絡ニ任ジ坡頭嶺ニ到着ス  
 五月二十七日 晴

四

部ヲ以テ精旅命第一六四驛ニ依ル戦闘司令  
所一軍趨班間ノ有線一回線ヲ構成ス

無線

無線小隊ハ精旅命第一六四驛ニ依リ第四分

隊ヨ小林部隊ニ配屬スルト共ニ戦闘司令所

ト小林茂久間部隊間ノ連絡ニ任ズ

五月二十八日 晴

一 有線

有線小隊ハ十二時齊源出發戦闘司令所一高

井部隊一武山間ノ有線網ヲ構成十四時完成

無線

二 無線

通信系變更

無線小隊ハ本二十八日六時以降附表第十

木ノ如ク通信係及諸元ヲ變更スルト共ニ  
ソノ連絡ヲ確保ス

之各分隊ノ行動

第三分隊ハ鯉登支隊ト共ニ十三時大峪鎮

ヲ出發十七時ケイモンニ到着戰鬥司令所

湯口栗栖部隊トノ連絡ニ任ズ

第五分隊ハ栗栖部隊ト共ニ十一時大峪鎮

ヲ出發センコウニ到着同隊ト鯉登部隊間

トノ連絡ニ任ズ

第九分隊ハ岩瀨部隊ト共ニ坡頭鎮ヲ出發

封門口方面ニ向ヒ前進ス

五月二十九日 晴

敵情及我が企圖

氷附近ヨリ東進中ナリシ敵第九十三軍ハ

第一 第一師團ハ其ノ退路ヲ轉ジ西北  
 方ニ脱逃セラルモノ如ク山西省東南部ニ於  
 ケル諸敵軍ハ東進ノ微ヲ認メザルニ至レリ  
 師團原駐地ハ治安ハ概不良好ナルモ近事盡  
 動ハ微ナリ  
 師團ハ新占領地域ノ掃討ヲ續行スルト共ニ  
 原駐地域内ノ肅正ヲ實施セントス  
 師團作命受領  
 十五時三五師作命ハ第二四九號ヲ受領ス  
 三 部隊作命下達  
 有線通信網構成ニ關スル精作命第一六五號  
 有線(陸)ノ如ク下達ス  
 四 有線小隊ハ精作命第一六五號ニ依リ主力ヲ

以テ 經 登 部 隊 一 軍 交 換 間 二 往 復 線 ヲ 以 テ 有  
 線 網 ヲ 構 成 ス ル ト 共 ニ 一 部 ヲ 以 テ 戰 闘 司 令  
 所 小 森 部 隊 間 ノ 有 線 一 回 線 ヲ 構 成 ス  
 有 線 五 月 三 十 日 晴  
 有 線 小 隊 八 精 作 命 第 一 六 五 號 一 依 リ 佐 藤 軍  
 部 以 下 二 十 五 名 ヲ 以 テ 軍 通 信 線 ヲ 利 用 シ 封  
 門 口 岡 野 部 隊 ノ 一 部 及 大 店 岡 野 部 隊 本 部 二  
 夫 々 電 話 機 ヲ 設 置 シ 通 信 網 ヲ 構 成 シ 二 十 時  
 作 業 完 成 二 十 三 時 濟 源 部 隊 本 部 二 歸 隊 ス 尚  
 一 部 ヲ 以 テ 武 山 線 及 經 登 部 隊 線 ノ 補 修 ヲ 實  
 施 ス  
 無 線  
 通 信 景 況



無線小隊ハ依然濟源戰鬥司令所ヲ基點トシ無線連絡ニ任ジテ空界ハ一般ニ靜穩ニシテ圍滑ナル通信ヲ實施セルモ十八時三十分ヨリ二十時三十分ノ間黄塵ノ爲強烈ナル空電ノ妨害ヲ受ケ全ク通信不能トナリタルモ爾後ハ辛ウシテ連絡ヲ確保セリ

又第九分隊歸隊

第九分隊ハ岩瀨部隊ト共六十七時濟源到着配屬ヲ解カレ部隊ニ歸還シ爾後ノ行動ヲ準備ス

五月三十一日 晴

師團作命受領

十二時三十分三五師作命丙第二五〇號ヲ受

領ス  
 部隊作命下達  
 無線通信系變更ニ關スル精作命第一六六號  
 別紙(案)ノ如ク下達ス  
 有線(案)ノ如ク下達ス  
 本三十一日現在有線通信網要圖附表第十七  
 ノ如ク  
 無線  
 通信系變更  
 本十七時以降精作命第一六六號ニ依リ附  
 表第十ノ如ク變更ス  
 令隊配屬  
 第八分隊八十四時三十分部隊出發西留養  
 湯口部隊本部ニ至リソノ指揮ニ入り同隊

ト敵鬪司令所間ノ連絡ニ任ズ  
第十分隊八十八時三十分部隊出發廟街  
登部隊ニ至リ同隊配屬トナル

六月一日 晴後曇

敵情及我が企圖

東進中ナリシ敵第九十三軍ハ高平附近ヨリ

西北方ニ轉進シ陵川附近ニアリシ第二十七

軍亦西ナリニ移動ヲ開始セルモノ、如キモ第

二十四集團軍ハ赤ダ變化ヲ見ズ

師團ハ依然現在任務ヲ續行スルト共ニ所要兵

力ヲ逐次原駐地ニ復歸セシメ治安ノ完壁ヲ

期セントス

有線

補修

三

有線小隊ハ師團交換ト高井部隊間ノ補修

ヲ實施ス

ニ交換加入

太田由部隊有線ハ本日交換機ニ加入ス

無線

ハ追及

第七分隊ノ追及若小澤上等兵以下四名及

耿馬二頭ハ高橋區曹以下五名ノ護衛ノ下

ニ自動費車ニ依リ七時濟源發火店ニ於テ

中山部隊ノ追及者ト共ニ二十一時四十五

分三爺廟ニ到着ス

ニ第五分隊

第五分隊ハ趙李庄ニ於テ分隊員二名及耿

馬ヲ殘置シ粟杓ヲ臂力搬送ニ依リ栗栖部

隊本部ト共ニ同地出發ト七時東楊村ニ達

六月二日 曇

下 師團作命受領

十八時三五師作命丙第二五一號ヲ受領ス

二 部隊作命下達

敵既設線偵察ニ關スル精作命第一六七號ヲ

三 別紙(註)ノ如ク下達ス

有線(註)ノ如ク下達ス

有線小隊ハ新ニ師團交換ト松鷲部隊間ニ有

線一回線ヲ構成スルト共ニ單交換ト經登部

隊間ノ補修ヲ實施ス

四 無線

通信景況

一、有線  
既設線偵察

無線小隊ハ依然濟源ニ在リテ連絡ニ任ジ  
 下リ森川佐久間部隊ハ發振ナク其ノ他ハ  
 夜間ニ於テハ空電ノ妨害ヲ受クルモ概シテ  
 良好ナル通信ヲ實施シテアリ

2  
 第六分隊  
 第六分隊ハ湯口部隊本部ト共ニ六時西留  
 養出發八時三十分廟四ニ到着直ニ同隊ト  
 經登部隊反戰關司令所間ノ連絡ニ任ズ

3.  
 護衛兵歸隊  
 昨一日王爺廟ニ到リシ高橋軍曹以下五名  
 ハ本十七時濟源部隊本部ニ歸還ス

六月三日 晴

脱逸ヲ圖リツ、アルモ、如シ  
 ×ザルモ山、西省内、殘敵ハ尚分散シテ南下  
 師團作戦地域内ニハ既ニ著シキ敵部隊ヲ認  
 敵情及我が企圖  
 六月四日 晴  
 補修  
 第一分隊ヲ以テ師團交換ト松鶴部隊線ヲ  
 補修  
 十四時濟源ニ歸隊ス  
 ツ三教附近ニ至ルモ敵既設線ヲ認メズニ  
 進困難ナルモ萬難ヲ排シ沿道ヲ偵察シツ  
 動貨車ニ依リ六時濟源出發惡路ヲ冒シ前  
 二依ル大店一狂白間敵既設線偵察ノ爲自  
 岡田少尉以下二十名ハ精作命第一六七ヲ

師團ハ引續キ掃討ヲ反覆シ殘敵ヲ索出剔快  
 部隊ハ現任務ヲ續行スルト共ニ殘敵ノ南渡  
 防止ノ爲新ニ戰鬪司令所ト狂口渡河點間ニ  
 有線網ヲ構成セントス  
 師團作命受領  
 十二時三五師作命丙第二五二號ヲ受領ス  
 三 部隊作命下達  
 半永久作業實施及無線通信系變更ニ關スル  
 精作命第一六八號ヲ別紙(註)ノ如ク下達ス  
 四 有線  
 有線小隊ハ松田軍曹以下二十名ヲ以テ保線  
 班ヲ編成シ懷慶一温縣一孟縣一濟源間半永  
 久線保線ノ爲濟源出發懷慶ニ到リ城外ノ保



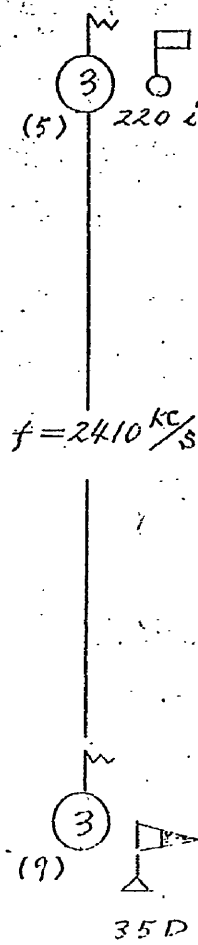
無線ヲ實施シ同地ニ爲營ス

無線通信系變更

栗栖部隊が本日ヨリ師團直轄トナレ

ヲ以テ無線小隊ハ精作命第一六八彌ニ依

スリ十六時十五分以降七ノ如ク連絡ヲ確係



通信時間 毎時十五分ヨリ

之第七分隊

第七分隊ハ中山部隊本部ト共ニ大峪鎮ヲ

北發十時三十分至五峯廟ニ到着連絡ニ任ズ

六月五日 曇

一 師團 作命 受領

三 五 師 作命 甲 第一〇八五 師ヲ 受領ス

有線 有線 班 松田 軍曹 以下 二十名 八七時 懷慶

出發 懷慶 | 温 縣 | 孟 縣 間 數ヶ所ノ 斷線 又招

賢集 南方ニ 於テ 約三 料ノ 斷線ヲ 認メ 補修ヲ

實施 十九時 懷慶 | 孟 縣 間ノ 通信 連絡 復舊シ

二十時 孟 縣 到着 宿 營ス

無線

一 第三 第十 分隊 八 裡 登 支 隊 本部 ト 共ニ 二十時

南 翟 庄 ヲ 出發 十五時 廟 街ニ 到着 直ニ 前任

務ヲ 續行ス

二 第四 分隊 八 小林 部隊 本部 ト 共ニ 五時 三十

時

一

敵情及我が企圖  
 百孺作戦ハ概不所期ノ成果ヲ收メ師團作戦  
 區域内並山西省内ノ蔣系軍ハ殆ド潰滅シ既

分三官店出發十五時廟街ニ到着ス  
 第七分隊ハ王登廟ニ於テ十九時中山部隊  
 同地出發時新ニ警備スル中田隊ニ協力ヲ  
 命ゼラレニ十時同地ニ於テ中田隊長ノ指  
 揮ニ入ル  
 第八分隊ハ六月四日二十時廟四ニ於テ湯  
 口部隊長ヨリ石岡隊ニ協力ヲ命ゼラレ五  
 日八時湯口部隊大行李ト共ニ同地出發十  
 一時坡頭鎮ニ到着石岡隊長ハ指揮ニ入り  
 同隊ト經登部隊本部間ノ連絡ニ任ズ  
 六月六日晴

1920

一 殘敵ハ彷徨ヲ見ルニ過ギサル一至レリ  
 二 師團八百號作戰ヲ終了シ逐次常駐配置ニ移  
 行ス  
 三 部隊ハ逐次兵力ヲ濟源ニ集結セントス  
 四 師團作命受領  
 五 三五師作命第一〇八六號三五師作命丙第  
 二五三號及三五師作命丁第六〇四號ヲ受領  
 六 部隊作命下達  
 七 他兵團トノ無線連絡ニ關スル精作命第一六  
 九號ヲ別紙(註)ノ如ク下達ス  
 八 有線  
 九 保線班歸隊  
 十 松田軍曹以下ノ保線班ハ七時五十分出發至

一 師團作命受領  
 八時三五師作命丙第二五四號ヲ受領ス  
 二 部隊作命下達  
 通信施設移讓ニ關スル精作命第一七〇號ヲ  
 又 補修  
 測辺上等兵以下七名ハ武山線ノ補修ヲ實  
 施ス  
 五 無線  
 無線小隊ハ精作命第一六九號ニ依リ第三十  
 六師團トノ通信ヲ準備ス  
 六月七日 晴

別紙(別)ノ如ク下達ス  
 三 有線 小隊ハ主力ヲ以テ武山線ヲ撤收スルト  
 有線 小隊ハ主力ヲ以テ武山線ヲ撤收スルト  
 共ニ一部ヲ以テ依然交換所勤務ニ服ス  
 四 無線 無線 小隊ハ依然現任務ヲ續行スルト共ニ方  
 無線 小隊ハ依然現任務ヲ續行スルト共ニ方  
 面軍兵器移動修理班ヲ利用シ器材ノ整備ヲ  
 實施ス  
 六月八日 曇  
 一 師團 作命 受領  
 三五 師 作命 第二五五號ヲ受領ス  
 二 部隊 作命 下達  
 配屬自動車ニ關スル精作命第一七一號別紙  
 (申)ノ如ク下達ス

三、有線

松田軍曹以下十三名ハ今次半永久作業ニ要スル器找受領ノ為懷慶ニ到リ即日歸隊ス

四、無線

第八分隊ハ石岡隊ト共ニ十五時坂頭鎮出發

二十時西留養ノ湯口部隊本部ニ到着配屬ヲ

解カレ濟源部隊本部ニ歸隊ス

五、先發

山口曹長以下十五名ハ部隊主力ノ原駐地歸

還ニ依ル貨物輸送及設營ノ為懷慶ニ先發ス

六、清水

清水小隊ノ配屬

三五師作命丁第六〇四班ニ依リ配屬ノ佐野

兵長以下五名自勸貨車三輛ノ配屬ヲ解カレ

新二本日ヨリ清水自勸車小隊ハ人員十五名

自勤貨車八輛（當部隊ニ配屬ナル）

六月九日曇

一 部隊作命下達

部隊主力ノ原陸地歸還ニ關スル精作命第一

七ニ號ヲ別紙（甲）集ノ如ク下達ス

二 有線

有線小隊ハ師團交換一松鶴部隊及高井部隊

間ノ補給ニ任ズルト共ニ半永久作業器械ノ

整備ヲ實施ス

三 無線

無線小隊ハ十四時以降附表第十九ノ如ク通

信系ヲ變更シ之ガ連絡ヲ確保ス但シ第三十

六師團トノ通信ハ軍無線（ニ號機）ト周波

數接近セルト同一時間ナル爲連絡困難ナリ



六月十日 曇

一 部隊 旅命下達

宿營ニ關スル精作命第一七三號別紙(集)ノ如ク下達ス

二 戦闘司令所ノ移動 (望)

三 戦闘司令所ハ本十日八時自動貨車ニ依リ新

郷ニ前進ス

部隊主力

戦闘司令所ノ前進ニ伴ヒ部隊主力ハ部隊長

以下五十一名及馬匹ハ原駐地歸還ノ爲十

二時三十分南門外ニ集結シ本部有線無線ノ

行軍序列ニ依リ濟源一懷慶道ヲ懷慶ニ向ヒ

前進行軍ヲ續ケニ十二時懷慶ニ到着ス途中

ニ於テ長期作戰ニ衰弱セル支那馬一頭斃死

四

ス懷慶到着後先發セル山口曹長以下十名  
ヲ合シ城内ニ於テ精作命第一七三號ヲ宿營  
命令テ依リ各隊ハ懷慶縣公署内ニ宿營ス

有線

有線小隊ハ野中五長以下十一名ヲ部隊主力

ト共ニ原隊地ニ向ハシメ主力ハ本十二時以

降煙登支隊ニ配屬トナリ大店一狂白間半永

久通信線架設作業準備ヲナス

五

無線

無線小隊長ハ第一第九分隊ヲ指揮シ八時戰

闘司令所ト共ニ自動發達ニ依リ濟源出發十

七時新額ニ到着ス殘餘ノ高橋軍曹以下十九

名及馬匹ハ部隊主力ト共ニ懷慶ニ至ル

六月十一日 晴

一 部隊主力

部隊主力ハ懷慶城内ニ在リテ器械ノ整備矣  
密被服ノ手入ヲ實施ス

二 有線

有線小隊ハ依然濟源ニ在リテ半永久作業ニ  
要スル電柱ノ蒐積ニ任ズルト共ニ交換所勤  
務ニ服ス

三 無線

無線小隊長ハ新彌踐闘司令所ニ在リテ部下  
分隊ヲシテ通信連絡ニ任セシム

六月十二日 晴

一 部隊主力

部隊主力ハ輸送指揮官中山少佐ノ指揮ヲ受  
ケ懷慶驛ニ於テ十四時三十分乗車完了十六

時發ノ列車ニテ原駐地開封ニ向ヒ二十一時  
新郷ニ達ス

二  
有線

有線小隊ハ濟源交換所勤務ニ服スルト共ニ  
濟源ニ蒐集シアル半永久通信線用電柱ヲ封  
門口ニ運搬ス

三  
無線

第六分隊ハ岩瀨部隊本部ト共ニイモ山南麓  
ヲ出發十八時胡嶺ニ到着同地ニ於テ配屬ヲ  
解カレ自動貨車ニ依リ二十時濟源ニ歸還シ  
有線主力ニ合ス

六月十三日 晴

一  
部隊主力

部隊主力ハ列車輸送ニ依リ昨夜新郷ニ到着

二

本零時新郷驛發四時五十分開封驛ニ到着中  
山輸送指揮官ノ指揮ヲ脱シ七時三十分部隊  
宿營地ニ歸隊又

無線  
開封ハ歸還

無線小隊長ハ第一第九分隊ヲ指揮シ戰鬥

司令所ト共ニ十一時新郷發交通列車ニ依

リ十五時三十分開封驛着部隊本部ニ歸還

師團司令部ニ於テ直チニ通信所ヲ開設シ

經登栗栖、小林及第三十三師團トノ連絡ニ

任ス

又第六分隊

第六分隊ハ自動貨車ニ依リ濟源發十二時

清化鎮着交通列車ニ依リ十八時三十分新

1900

御着宿營ス

六月十四日

晴

一

師團作命受領

石垣少尉部隊復歸ニ關スル三五師作命甲第

一〇九〇號ヲ受領ス

二

有線

有線小隊ハ主力ヲ以テ濟源ニ蒐積シアル電

柱ヲ大石三叉路迄運搬作業ニ任ズ

三

無線

一部通信系撤去

本十四日二十時ヲ以テ第三十六師團トノ

通信ヲ終了ス

二 第六分隊

第六分隊八十一時新郷發列車ニテ十六時

開封部隊本部ニ歸還ス  
六月十五日 晴

一 中原會戰終了

五月一日作戦開始以來約五十日間今次中原會戰ハ各隊ノ奮闘努力ニ依リ概テ所期ノ成果ヲ收メ本十五日ヲ以テ作戦終了ス

二 有線

有線小隊ハ作業ノ爲齊源出發大店ニ至リ大店警備隊ト三又路間約二料ノ架設作業ヲ實

施シ大店ニ宿營ス

地盤岩石ニシテ作業困難ナリ

三 今次中原會戰ニ於ケル人馬死傷表附表第三

十ノ如シ

編成裝備ニ就テ

今次作戦ニ於テハ本部有線ハ車輛無線ハ  
 車輛及駄馬各半數ノ混合編成ヲトリ駄鞍  
 ハ部隊出勤前ニ受領シ得ズムヲ得ズ温  
 縣ニ集中間之ヲ受領シタルモ無線器找駄  
 載ニハ通ゼズ行動ノ長期ニ亘ルニ從ヒ駄  
 馬ノ損傷多ク部隊全般ノ行動ニ支障ヲ來  
 スニ至レリ將來ハ車輛編成ヲ立前トシ且  
 地形ニ依リ隨時駄載シ得ル如ク別ニ駄鞍  
 ヲ準備携行スルヲ可トス  
 無線機豫備ノ必要  
 今次作戦ノ如ク無線ヲ主通信トシ且通信  
 スベキ部隊多キ場合ハ無線一小隊ハ十分  
 隊ノ他ニ若干ノ豫備機ヲ必要トス



3. 又部隊裝備ノ水晶片ノ整備ヲ必要トス  
有線

1. 今次作戦開始時ニ於ケル部隊幹部少數十  
ル爲止ムヲ得ズ有線ハ一小隊(五分隊)ノ  
ヲ編成セシモ遠距離構成及駐軍間ニ於ケ  
ル連絡個所ノ増加等ノ必要ノ爲將來ニ小  
隊編成トスルヲ可トス

4. 自動貨車ノ必要  
有線作業指導偵察架設材料ノ運搬及無線  
ノ挺身等ノ爲若干ノ自動貨車ヲ必要トス  
訓練ニ關スル事項

人馬專教育  
作戦間鞍馬顛倒等ニ依リ行軍及通信ニ支  
障ヲ來セルコトアリタルハ遺憾ナリ

2.

訓練實施ノ要アリ  
他通信部隊ト無線連絡

今次作戦ニ於テハ他兵團及他通信部隊ト  
ノ通信連絡ヲ實施セルコト屢々ナリシモ  
教育法ノ相異及相互ノ精神的緊密ヲ缺ケ  
ル點アリ通信ノ疎通ヲ害スル事アリタル

ハ遺憾ナリ

將來共他通信部隊ト無線連絡ノ要度益々  
多キニ鑑ミ努メテ他通信部隊ト無線  
連絡ヲ演練スルノ要アリ

3.

状況ニ應ズル無線ノ迅速ナル系變更  
今次作戦ノ如キ機動戦加フルニ状況刻々  
ニ急變スル作戦ニ於テハ特ニ無線連絡ノ

其他

重要視セラレ、所以ナレバ之ニ伴フ迅速  
 ナル通信系變更ノ演練ヲ必要トス  
 之ガ爲警備用無線通信等ハ必要ノ最以限  
 トシ通信隊本然ノ訓練ヲ計劃實施シ得ル  
 如クセラレシコトヲ望ム

幹部ノ通信ニ關スル智識ノ缺如  
 國軍幹部ノ通信ニ關スル智識ノ缺如ハ從  
 來屢々云々サレタルモ今次中原會戰ニ於  
 テモ痛感サレタル所ナリ

(1) 某警備隊ニハ電話アリシニ不拘其回線  
 不明ナリトシ任地到着以來十數日間使  
 用セザリシガ如キ

(四) 其本部ノ電話引込線ニ洗濯セル襦袢ヲ  
 懸ケアルヲ幹部以下無關心ナルガ如キ  
 無線ノ特性ヲ知ラザル為徒ラニ複雑十  
 ル系トシ某部隊ニ於テハ配屬セラレタ  
 ル三號機ニ對シ五號機ヲ以テ六所一系  
 ノ如キ恰モ交換機ニ加入セル電話機ノ  
 如ク誤リアルニ非ザルヤト思ハルガ  
 如キ  
 切ニ國軍幹部ノ通信ニ關スル智識ノ向上  
 ヲ望ム  
 有線網ノ構成法ニ就テ  
 敵砲火ノ顧慮少キ場合稍長時日ニ亘リ地  
 上ノ敷設シテ構成セル有線通信網ハ友軍  
 ノ車馬ノ通過ニ依リ切斷セラル、寧多キ

8933

ヲ以テ成シ得ル限リ懸案スルカ埋設スル  
ヲ要ス

94

0933